

サポーター会議③
2014/6/21 活動リレートークメモ

■会議メンバーの中には、実際に活動を展開する方がたくさんいらっしゃいます。そんなみなさんに、事業を始めるきっかけ、将来への課題等、「生の声」をお聞かせいただきました。

●「さくらの家」

- ・「さくらの家」では介護保険を使ったデイサービスや訪問介護を行っています。
- ・以前は大きい施設にいたが、大きい施設はしぼりがある。
- ・大きい施設に入らないために在宅でどこまでできるのか。
- ・認知症の男性で、まだ若く、施設には行きたくないという方たちをどうするればよいか。
- ・地域のボランティアと介護事業所がどうつきあっていくか。
- ・まだ認定は受けていないがちょっと心配な方をどうしていくか。

●「社会福祉法人 あかいけ寿老会」

- ・H17 に社会福祉法人として立ち上げました。
- ・H18 に介護保険の使えるケアハウスを始めました。
- ・H23 に特別養護老人ホームを始めました。
- ・H26 に保育、一時預かりの事業を始めました。
- ・保育、一時預かり事業はまだ認知度が低い。

●「第2 むつみ苑」

- ・H15 に認知症対応型共同生活介護事業を始めました。
- ・認知症になってもその人らしく生活ができるように。
- ・小規模多機能型居宅介護を始める。
- ・小規模多機能型居宅介護は収益性が悪いため広まらない。
- ・しかし、デイサービス、ショートステイ、訪問サービスの全てのサービスを自由に選択できるメリットがある。利用者にとっては自由に使える。
- ・手の掛からない方は大きい事業所が抱えてしまう。
- ・一度、一つの事業所、ケアマネージャーに関わるとなかなか他の所には変えられない。
- ・本人は事業所を選べない。
- ・利用者が選択できるようなシステムができればその人の生活に合った事業所を選べる。

●「社会福祉法人ポレポレ」

- ・H18 にNPO法人化しました。
- ・H22 社会福祉法人化しました。
- ・障害者支援のお好み焼き屋さんをやっています。
- ・親が高齢化していくと、将来、障害を持っている子どもは行くところがない。
- ・地域に根付いていこうとしたときに地域の理解を得ることが難しい。
- ・障害を持った子どもが安心して遊べる場所、自由に遊べる場所がない。
- ・地域の公園やスポーツセンターでは苦情が出てしまう。
- ・相談窓口はあるが相談しづらい。できない。使いにくい。

● 「NPO法人ファミリーステーションR i n」

- ・ H15 NPO法人化。
- ・ 子育て支援、情報誌「ふぁまっぴ」の発行を行っている。
- ・ 子育て総合支援センターの運営管理を行っている。
- ・ 「R i nのおうち」親子が遊びに来られるような場所を提供。(集いの広場)
- ・ 日進市で楽しんで子育てができるよう、子育ての不安を解消できるように活動している。
- ・ 発達の問題があっても一人で抱え込まないように。親子関係をどう支えていくのか。
- ・ 親子を支えるためのネットワークをつくりたい。
- ・ スタッフの数が少ない。
- ・ 若いスタッフやボランティアの裾野を広げていきたい。

● 「NPO法人じゃんぐるじむ」

- ・ 日進市の療育施設「すくすく園」がきっかけ。
- ・ 障害をもった子どものガイドブックづくり。
- ・ 小さな子どもから大人まで通える施設。
- ・ 放課後デイサービス
- ・ 18歳以上の場、働く場や大学のような場所をつくりたい。
- ・ 働く場の選択肢を広げたい。
- ・ 障害者の派遣会社のようなものをつくりたい。

■ 質問・意見

- ・ 実際に家族に障害者がいる方に市議員になって欲しい。なる気はないでしょうか？
→目の前のことからやっていかないと変わっていかない。
→政治の世界に入ってしまうと、廻りの人たちとの距離が遠くなってしまふ。
→政治の勝ち負けではない。
- ・ 地域の理解が得られないことがショック
→地域座談会でも子どもたちが自由に遊べる場所が欲しいという意見が多かった。
→公園に車止めが設置されたため車いすが入れなくなった。